

**製本加工を効率化。生産性向上により創出された時間を誌面づくりに活かす。
新設備の導入で作業時間が短縮。働きやすい環境に。**

事業の背景・目的

当社は長年にわたり、地方自治体が発行する広報誌の誌面づくりや印刷を担当している。自治体広報誌を製造するための技術的な課題として、従来、入稿から納品までの期間が短いために、「もう一手間」をかけてさらに美しい誌面づくり(企画・デザイン・組版)を行う時間が、なかなか確保できないことが挙げられていた。そこで本事業では、これらの課題解決を図るために、新たな設備機器を導入して印刷以降の工程に要する時間を短縮し、製造日数を増やすことなく、より質の高い誌面づくりを追求できる時間をもう1日ほど捻出して、広報誌面のさらなる充実、品質向上を図り、全国広報コンクール1位を目指すことを目的とした。

事業内容

印刷用データ作成日数を1日伸ばし、印刷以降の工程を1日短縮することで、製造日数を増やすことなく、より質の高い紙面づくりを追求できるようにした。計画に不可欠な広報誌に特化した製本加工機械として中綴じ機1台、紙折機2台を新規に導入。合わせて「IoT」「AI」(製本ネットワークシステム)を使って印刷以降の工程の生産性の向上を図った。新規2台の紙折機により、従来40分かかっていた準備時間が5分程度に短縮され、処理速度も向上。さらに加工精度の向上で不良品がほぼゼロとなった。中綴じ機においては、従来、製本後に手作業で行っていた2穴加工やペラ差し込み作業が機械内で自動化され、製本加工時間の大幅な短縮が確認された。



◀中綴じ機。
2穴加工、ペラ差し込みも
自動化されている。



▲紙折機(菊全版)。自動化により調整時間が大幅に短縮された。



▲紙折機(四六半切版)

事業の成果

新たな製本加工機械の導入により、印刷以降の工程の圧縮、及び加工時間の短縮が実現した。これにより納期を守りながら、より質の高い誌面づくりに費やす時間を1日増やすことが可能になった。また、従来課題となっていた製造ラインのボトルネックが解消されたことにより、パンフレットやリーフレットなど民間需要においても作業時間が2時間程度短縮され、余裕をもって出荷対応できるようになった。さらに、新設備の導入により製本加工の内製化率が向上。外注支出が大幅に削減され、従来の1/3に収まる目途がついている。作業時間の短縮等により20%程度のコストダウンも見込まれ、残業時間の減少は従業員のワークライフバランスにも良い影響を与えている。

今後の展望

今回の設備投資によって得られた成果により、自治体広報誌の誌面づくりにより多くの時間を割けようになり、自ずと品質への評価も高まってきている。今後は引き続き全国的な評価を目指した取り組みを続けるとともに、本事業で得られた成果を広く他の地方自治体にも水平展開し、さらには企業や団体等の社内報、会報誌等にも的を絞りながら、校正・校閲部門を有する当社の強みを活かした営業展開を進めていく。ネットワーク社会の進展により印刷離れの傾向も見られるが、大切な情報をタイムリーに分かりやすく伝えるという広報誌や会報誌等の役割は依然として大きく、今後も編集ノウハウを蓄積し、企画提案力、表現力を磨きながら、期待される役割を担っていきたい。

大場印刷株式会社

- 代表者: 大場 寛治
- 設立年: 昭和35年
- 資本金: 4550万円
- 従業員: 50名
- 住所: 山形県山形市立谷川二丁目485-2
- TEL: 023-686-6155 FAX: 023-686-3752
- URL: <http://www.obainsatsu.co.jp>



専務取締役 大場 賢二

■業務内容

広報誌や情報誌、書籍や記念誌、学習参考書、チラシ・DM、パンフレット・ポスターから名刺・封筒、伝票類まで。企画・デザインから印刷、出版、物流、及びWeb関連までのワンストップサービスを提供し、多彩な設備を駆使したオリジナリティあふれる印刷物を通して「五感に響くコミュニケーション」による“活力あるまち”の実現に貢献している。